

万華鏡のような色彩の乱舞 溢れんばかりのロマンティックな情景

フランスのエスプリを凝縮したかのような洒脱なプーランク
仄かな安堵を感じさせるドビュッシー

涼風が吹き渡る田園風景を彷彿とさせるしみじみとしたセヴラック
静謐な微睡と憧憬の間を彷徨うようなモンポウ

慈愛に満ち、スペインの哀切と情熱を絶妙に紡ぐグラナドス
そしてレクオーナでは人の営みを鼓舞するがごときエモーション

——こういった多彩なアクターを鷺宮さんは明確に提示し、

鮮やかに弾き別けていたのだ。
それはどこかノスタルジックであったり、
心の奥底に潜む敬虔な祈りであったり、
さらには生命への飽くなき希求であったりするが、
鷺宮さんはそれらを融合し、
圧倒的な音楽として織り上げているのだ。

真嶋雄大

(音楽評論)



- プーランク 愛の小径
- プーランク エディット・ピアフを讀えて 即興曲第15番
- プーランク ナゼルの夜
- ドビュッシー 亞麻色の髪の乙女 《前奏曲集 第1集》より
- セヴラック ロマンティックなワルツ 《休暇の日々から 第1集》より
- セヴラック 古いオルゴールが聞こえるとき 《休暇の日々から 第1集》より
- モンポウ 歌と踊り 第6番
- グラナドス アンダルーサ 《スペイン舞曲集》より
- グラナドス 《ロマンティックな情景》より (マズルカ/アレグレット/エピローグ)
- グラナドス 《アンダルシア》より (アンダルーサ/マラゲーニャ)
- レクオーナ 《スペイン組曲「アンダルシア」》より (アンダルーサ/マラゲーニャ)